

意見聴取会実施状況（6月末現在）

資料3-2

NO	学区・地区	開催日	時間	会場	アンケート回答数
1	琢成学区			琢成学区コミュニティ防災センター	103
2	浜田学区	7月12日予定	13:30～	浜田学区コミュニティ防災センター	95
3	若浜学区	5月27日	18:30～	若浜学区コミュニティ防災センター	98
4	富士見学区	4月26日	10:00～	富士見学区コミュニティ防災センター	123
5	亀ヶ崎学区	5月27日	10:30～	亀ヶ崎コミュニティ防災センター	140
6	松原学区	7月14日予定	10:00～	松原コミュニティ防災センター	129
7	港南学区			港南コミュニティ防災センター	57
8	松陵学区	5月7日	11:00～	松陵学区コミュニティ防災センター	94
9	泉学学区			泉学区コミュニティ防災センター	133
10	宮野浦学区	5月13日	13:30～	宮野浦学区コミュニティ防災センター	98
11	飛鳥地区	7月30日予定		飛鳥コミュニティセンター	10
12	西荒瀬地区			西荒瀬コミュニティ防災センター	42
13	新堀地区	4月9日	14:00～	新堀コミュニティ防災センター	48
14	広野地区	3月17日	13:30～	広野コミュニティセンター	51
15	浜中地区	3月31日	15:00～	浜中コミュニティセンター	25
16	黒森地区	6月14日	14:15～	黒森コミュニティセンター	26
17	十坂地区	4月16日	11:00～	十坂コミュニティセンター	59
18	東平田地区	6月29日	13:30～	東平田コミュニティ防災センター	31
19	中平田地区	6月7日	10:00～	中平田コミュニティセンター	44
20	北平田地区	5月28日	13:30～	北平田コミュニティセンター	34
21	上田地区			上田コミュニティ防災センター	35
22	本楯地区			本楯コミュニティセンター	44
23	南遊佐地区	6月4日	10:00～	南遊佐コミュニティセンター	34
24	一條地区	3月29日	13:30～	やまゆり荘	35
25	観音寺地区				53
26	大沢地区				24
27	日向地区				21
28	南部地区	4月23日	19:00～	南部コミュニティセンター	28
29	山寺地区	5月10日	13:30～	山寺コミュニティセンター	20
30	松嶺地区			松嶺コミュニティセンター	49
31	内郷地区	3月16日	10:00～	内郷コミュニティセンター	30
32	田沢地区	5月26日	18:30～	田沢コミュニティセンター	28
33	東陽地区	4月28日	18:30～	東陽コミュニティセンター	43
34	郡鏡・山谷地区	4月24日	13:30～	郡鏡・山谷コミュニティセンター	30
35	南平田地区	5月25日	13:30～	南平田コミュニティセンター	50
36	砂越・砂越緑町地区	4月2日	18:30～	砂越・砂越緑町コミュニティセンター	30
	◎実施 26地区			不明	26
	◎未実施 10地区			合計	2,020

意見聴取会で意見を聞いた項目

地域の声（今困っていることや、今後困ってきそうなこと、地域の現状などについて）をお聞かせください

- ① 将来の認知症や徘徊、病気や介護、加齢などへの不安について
（あんしんネット、見守りネットワーク、福祉サービス利用援助、成年後見 等）
- ② 現在の日常生活での困り事、相談窓口について
（交通弱者、買い物弱者、除雪等 家の中・外での困り事、相談 等）
- ③ 緊急時、災害時の不安について
（災害時要援護者避難支援、災害ボランティア、救急安心カード 等）
- ④ 地域の新たな困り事（複合的な課題や制度の狭間の問題）について
（低所得、ニート・引きこもり、消費者被害、虐待、自殺、8050問題、ゴミ屋敷、空き家、子どもの貧困、ヤングケアラー、ダブルケア 等）
- ⑤ 地域福祉（活動）の担い手、育成について
（現役世代や社会福祉法人や企業への期待、福祉教育、小中高参加、若い世代の減少、子育て支援 等）
- ⑥ 再犯防止の推進について
（犯罪をした方の立ち直りへの協力、保護司、更生保護女性会 等）
Q 地域で協力できることがあるとすれば、何ができると考えますか。
- ⑦ 自由意見
誰もが住み慣れた地域で安心して生活することができる地域とするためのご意見をお聞かせください

意見聴取会での主な意見

① 将来の認知症、徘徊、病気や介護、加齢などへの不安について

- ・ 親の認知症での徘徊の不安。 ・ 将来、認知症になった時の不安。
- ・ 認知症により自宅の管理が出来ない方の問題。
- ・ 認知症とっていない方との接し方。

- ・ 金銭的な問題。年金だけでは施設入所出来ない。
- ・ 希望した時にすぐ施設入所できるのか心配。

- ・ 担い手不足ため、見守りネットワークにも限界がある。
- ・ 一人暮らしで、近所に相談出来る人がいない。
- ・ 若い世代が減少し、高齢者が見守りをしている。

② 現在の日常生活での困り事、相談窓口について

除雪の問題

- ・ 高齢により除雪が大変になってきた。 ・ 除雪ボラティアを探すのが大変。
- ・ 業者が玄関前に雪の塊を置いていく。 ・ 除雪しても雪の置く場所がない。

移動手段

- ・ 買い物・通院時の交通手段がない。
- ・ 交通が不便のため、免許証返納が不安。
- ・ デマンドタクシーの使い勝手が悪い。決まったルートでしか利用出来ない。

③ 緊急時、災害時の不安について

- ・ 避難場所が遠い場所にある。
- ・ 指定の避難所（庄内町ホテルドーム）へは歩いて行けない。
- ・ 避難時に市で避難バスを出してほしい。
- ・ 避難支援者も働いている人が多くなってきている。避難者支援者も高齢化している。登録はしているが、いざとなっても市役所から何の連絡もない。災害は緊急時、時間との勝負、限界がある。体制の一考要する。
- ・ 自治会等に属していない方たちにも、災害時に避難できる制度を。

④ 地域の新たな困り事（複合的な課題や制度の狭間の問題）について

空き家、ごみ屋敷

- ・空き家が増えてきてゴミ屋敷になる。・空き家は不衛生にもなるし、更地にするための助成や減税等考えてほしい。
- ・空き家対策にもっと力を入れてほしい。強風が吹くと隣の建築物が飛んでくる。きちんと調査してもっと厳しく対処してほしい。
- ・高齢者が毎年亡くなり、空き家が増えてきた。現在、空き家見守り隊を担当しているが10年後は今住んでいる自宅も空き家になる。

ひきこもり・8050問題

- ・地域で一人暮らしが限界となっている人が見られる。特に8050問題で親が亡くなり生活が維持することが困難になっている。
- ・地域の交流の低下から、引きこもりが増加する。外出をうながすような画期的対策が必要。
- ・引きこもりはいる。中学までは義務教育なので、関わる人が多いが、高校や大学に行ってからつまづいてしまう人達をキャッチできない。関わる人がいない。若者サポートステーションはあるが、ハードルが高い。引きこもりの当事者団体を紹介するが、問題の解決にはつながらない。春風の会などあるが、市全体のものにはなっていない。

こどもの貧困

- ・子供の貧困、ヤングケアラーについては、国が子ども庁を新設するとのこと。
- ・国の子ども庁、働き方（週休3日制）等の制度を見ながら検討していくべきと考える。

⑤ 地域福祉（活動）の担い手、育成について

現役世代や社会福祉法人や企業への期待について

- ・地域の企業には「新春の集い」等に案内状を差し上げている。（何社かは参加している）
- ・地区の共同作業にも子供会役員の参加を願い、若い世代の人々がもっと関わってもらいた。
- ・地域福祉の担い手は、自分の家族を守るのに必死であり、他人のことを考える余裕は無いように見られる。人はいるが、組織運営ができない状況が2~3年後に発生する。

福祉教育

- ・クリーン作戦には子供たちも参加している。その年代になれば参加してくれると思う。
- ・若い世代が急激に減少している中、担い手、育成を考えてもだめだと思う。
- ・義務教育にも福祉に関わる教育（酒田市バージョン）をやる事と、行政職員のモラル向上教育が不可欠と考えている。
- ・公益文科大学の学生等を活用して、地域ケアコーディネーターを中心に助け合いの仕組みづく

り、人を動かす、まちを動かす、人を集める、人を引き出すなど住民参加の音頭取りをしていけるようにする。

若い世代の減少

- ・経済的な問題で、家庭を持つ不安と独居の気楽さなど、特に20代～30代にはあると思う。50代くらいになると将来的な不安を感じ、感じた頃には適齢期が終わっている。経済の発展があれば良いと思う。
- ・少子高齢化で子供たちが少なく、結婚しないでいる独身男性が多い。何とかならないか。
- ・高校・大学進学後県内を離れ地元に残る若者が少なくなっている。県内企業に就職できれば良いと思う。

⑥ 再犯防止の推進について

- ・家族が隠すことなく、笑顔で地域行事集いに参加することが第一歩と思う。
- ・保護司と協力して自立を支える。仕事を与える。そして温かく見守る。
- ・あまり再犯防止については話し合ったことがない。現実的にも自治会の中でそのような人が出た場合には考える。
- ・犯罪をした方への偏見を捨て暖かく支援する。
- ・犯罪をして自宅に戻ってきたとき、近所の人たちが、またやってしまったとか白い目で見て関わりたくないという面があると思う。やはり更生してきたのだから温かい目を向けて声掛けをして隣近所になじんでもらうようにしてもらいたい。
- ・保護司、負担が大きい。活動に限界がある。近所親戚は干渉したくない。何もできない現状。

⑦ 自由意見

- ・実際に課題を抱えている人からの思いが反映されていない。
- ・困った人のみ助けることは自治会ではない。町内全員が暮らしやすい「まち」づくりを考えなければならない。自治会に期待されても困るが、自主性を持ち、自分たちが暮らしている町内は自分たちで作っていく考えが必要と思われる。
- ・集まることによって気づきや見守りができる。福祉につながる。こういったことへの市の支援を期待したい。立ち上げ時だけでなく、継続的に。
- ・国から県、県から市へと上から下のセクションへ流れていくだけだが、酒田市はこうするなどと、独自に決めることはできないのか。ごみの有料化など決められたことを流しているのでは、このように意見を出すこと自体意味がない。
- ・福祉という行政の支援の仕組みが分かりづらく感じる。社会福祉協力員とか、民生委員とかにならないとどのような支援があるのか理解出来ない。一般の市民にも困った時はここに相談に行

けば大丈夫という安心感が得られるような、地域密着を取り組んでいけたらと思う。

- ボランティアを期待する時代は終わりに近づいている。必要な組織や団体を作って運営する方向に変革することを進めておかないと手遅れになると考え提案する。
- 各地域で状況が違うので、常に出て歩けとは言わないが、現場に出て意見を聞くようにできないか。環境が違えば、とらえ方も違う。住民の所に足を運び現状を見ていただきたい。
- 全体として言えますが、人が地域にいないという点が、一番の問題と考えている。地域コミュニティはすでに、崩壊していると感じている、地域福祉は必要な事とはわかるが、この点、お金を払ってでも若い人を採用する方向をお願いしたい。